

# あかるく かしこく たくましく

令和5年6月28日 No. 15 文責：校長 佐野紳二

## 小笠原小学校の歴史④ 小笠原小学校に残されている・大切にされている言葉

150周年を迎える本校には、これまでに学校に寄せられた書がいくつか残されています。中には時代の流れとともに破損してしまったり、焼失してしまったりしたものもあるようですが、シリーズ第4弾の今日は、現在でも学校に残っているいくつかの言葉について見ていきたいと思います。

### 脩學習業（修学習業・しゅうがくしゅうぎょう）

本校の玄関に入って右手に飾られている大きな書が、この「脩學習業」です。

「修学習業」という言葉は、1890（明治23）年に明治天皇が近代日本の教育方針として下した「教育勅語」の中にある言葉で、「修学」は「学校に通ったり、先生についたりして、知識を学び習って身につける」こと、「習業」は「学問や技芸などを習う」ことを表し、2つを合わせて「勉学に励み職業を身につけよう」という意味になります。

なお、本校の玄関にある「脩學習業」の横にある説明書きには、この書を揮毫した足達彦作氏についての説明が書かれています。



### 醇厚中正（じゅんこうちゅうせい）・質実剛健（しつじつごうけん）

校長室の机の後ろには、「醇厚中正」と「質実剛健」の2つの言葉のレリーフが飾られています。この言葉は、ともに本校の校旗の表面と裏面に書かれている言葉で、東郷平八郎伯爵によって書かれたものであることは割と有名な話です。この校旗がつくられたのは、前回の小笠原小学校の歴史シリーズ第3弾で紹介した、第11代校長・鈴木茂治先生のとときです。

#### 醇厚中正

醇厚は、人情の厚いことの意。中正は、かたよらず公正であることの意。

この言葉は、大正12年に関東地方を襲った関東大震災の直後、1923（大正12）年に大正天皇から出された『国民精神作興詔書（こくみんせいしんさっこうしょうしょ）』という詔書の中にある言葉です。この勅語は、地震やそれに伴う火災による首都の破壊や増大する社会不安を契機に、国民に対して、災害後の国力回復や道徳振興を呼びかけたもので、この詔の一節に「醇厚中正」という二つの言葉を一つにした四字熟語があり、当時、復興のスローガンの一つとして多くの人がこの言葉を引用していたそうです。



「防災意識を育てる WEB マガジン」より <https://shisokuyubi.com/bousai-kakugen/>

#### 質実剛健

中身が充実して飾り気がなく、心身ともに強くたくましいさまを表す言葉です。「質」は質朴、「実」は誠実の意で、「質実」は飾り気がなくまじめなこと、「剛健」は心やからだが強くて逞しいことをそれぞれ意味しています。



県内の甲府工業高校・甲府商業高校・都留高校などいくつかの高校の校訓となっています。

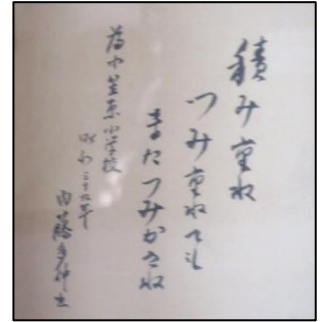
「goo 辞書」 <https://dictionary.goo.ne.jp/>

「修学習業」「醇厚中正」「質実剛健」の3つの言葉以外にも、教育勅語の中の一節「知能啓發徳器成就（知能を啓発し徳器を成就する）」の書が寄贈され、校内に飾られていたという記録が本校の100周年記念誌の中に残されています。（現在、この書は残っていないようです）

これらの言葉（四字熟語）は、どれも明治維新後の日本で使われた言葉です。当時の「新しい日本を創っていくんだ！」という気概がこれらの言葉には込められており、当時はそうした人間の育成を本校も目指していたことが推測できます。

### 積み重ね つみ重ねても またつみかさね

校長室の「醇厚中正」「質実剛健」のレリーフの隣には、東京タワーの設計者、内藤多仲博士の直筆による「積み重ね つみ重ねても またつみかさね」の色紙があります。内藤多仲博士はお隣の楡形北小学区（曲輪田地区）出身で、「耐震構造の父」として知られています。この言葉は多仲博士が晩年に残した言葉だと言われており、真摯に努力を積み重ねることの大切さを教えてくれる言葉として、多くの人に感銘を与えています。この言葉のわたしなりの解釈は、昨年末、前任校の楡形北小学校の学校通信に書かせていただきました。もし、興味を持っていただけた方は楡形北小学校のホームページ「学校だより>令和4年度>「積み重ね つみ重ねても またつみかさね」>学校通信 No.57」をご覧ください。



### 「自分を大切に、他者を大切に」子どもの育成\*

本校の現在の学校教育目標『自分を大切に、他者を大切に』子どもの育成は、平成11年度、当時の校長先生であった相原千里先生が定めた目標です。私が教頭時代、当時、学校評議員を務められていた相原先生の話のを伺う機会があり、そこで、小笠原流礼法の考え方を教育目標に取り入れたとおっしゃっていた記憶があります。

また、現在、校訓となっている「あかるく かしこく たくましく」は、昭和49年2月に除幕式が行われた100周年記念の碑にも刻まれており、そこには「『あかるく かしこく たくましく』は、本校の教育目標から要約した校訓」という説明がされています。100周年を迎える前から本校では親しまれていた言葉のようです。この「あかるく かしこく たくましく」は昭和50～53年のいずれかの時期に学校教育目標となり（はっきりした資料が残っていないので、これ以上の特定ができませんでした）、それ以来、平成11年に現在の学校教育目標が定められるまでの約25年間、本校の学校教育目標となっていました。



\* 玄関を入ってすぐの位置には、校訓の「あかるく かしこく たくましく」と学校教育目標の「自分を大切に、他者を大切に」子どもの育成の掲示物があります。掲示物の学校教育目標は「子どもの育成」ではなく「児童の育成」になっていますが、さまざまな文書の中で「児童」と「子ども」の混在を避けるため、数年前に前飯久保校長先生が「子どもの育成」に統一することを決め、現在に至っています。

それぞれの言葉にはその言葉を送った人の「思い・願い」が込められています。小笠原小学校の150年の歴史の中で、学校に求められるものが大きく変化したことが、今回採り上げていくつかの言葉を見ても分かるような気がします。前飯久保校長先生が使っていた「カッコイイ」や、私が子どもたちに呼びかけている「スマイル」にも、それぞれの願いがあります。

「スマイル」が150年後にも残る言葉だとは考えていませんが、今の小笠原小学校が目指している方向を示す言葉として、子どもたちだけでなく保護者の皆様や地域の皆様にも親しんでいただければ…と思っています。

